

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 令和4年11月15日

送信先: report@r-ict-advisor.jp

派遣決定番号

報告回次

5日目

令和4年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	能代市	代表者名	齊藤 滋宣
担当者部署	企画部	連絡先電話番号	0185-89-2189
担当者役職	主事	担当者氏名	戸松 亮太
		連絡先E-mail	
住所	016-8501 秋田県能代市上町1番3号		

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	川口 弘行
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	DXの基礎知識からDX推進計画の実行段階における留意事項等について、担当職員以外の職員でも理解しやすい例や他市事例を用いながら講演いただいたことにより、参加した職員間でDXについての認識を共有することができました。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（応募依頼より）	支援内容（応募依頼より）	期日・支援内容の変更あり		
	令和4年11月7日	講演	無		
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
			10時00分	11時47分	
				活動時間（分）	107

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkou/>

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員	33人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	先行事例の紹介、DXがもたらす業務改革等、実践意識の醸成を目的とした研修研修会を開催しようにも、講師候補者がいなかったこと。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	職員のDXに関する基礎的な共通理解の形成や実践意識の醸成により、全庁体制でDXを推進する。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	DXの基礎知識からDX推進計画の実行段階における留意事項等について、担当職員以外の職員でも理解しやすい例や他市事例を用いながら講演いただいたことにより、参加した職員間でDXについての認識を共有することができました。	
支援を受け改善又は解決された内容	施策の評価方法などの見直しができただけ、計画策定よりも前の段階で、先を見据えた専門的な考え方を学ぶことができた。	

(具体的にご記入下さい)	力を注ぎしてまいりました。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修を受けていない職員の、DXに関する基礎的な共通理解の形成や実践意識の醸成。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 講演後の質疑応答で感想等を共有しているため、アンケートは行っていません。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
事業の最終的な目指す姿	能代市DX推進計画の策定	

未記入のセルがあります。以下の項目に水色と黄色のセルが残っていないかご確認ください。
なお、〈その他〉を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

1-1.

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



目指すべき将来像

「やること」ではなく、「状態」を示している。

→ 将来像を実現するならば、どんな手段(デジタル・アナログ)も使う。

能代市DX推進計画 (※官民データ活用推進基本法第10条第2項)

計画の理念
デジタル技術を活用して、いつでもどこからともなく、誰一人取り残されないデジタル社会を能代市が目指します。

目指すべき将来像

【例】

- マイナンバーカードを使って、様々な行政サービスが受けられるなど、マイナンバーカードがデジタル社会の基盤となっています。
- 電子申請や電子納付の利用により、各種申請手続きや納付手続きが、オンラインで行うことができます。
- デジタルインフラの整備が市内全域で完了し、全ての地域でデジタル化によるメリットを受けられます。
- スマートフォンの利用方法について、高齢者等が身近な場所で相談や学習を行います。
- 情報システム(住民登録や税等のシステム)の導入や運用コストが低減されています。
- AI(人工知能)や、RPA(ロボット)による業務自動化による業務の効率化で、より質の高い行政サービスが行われています。

WHY:
何のためにするのか

36

